

日本生体医工学会 平成20年度 第3回理事会 議事録

日時： 平成20年11月18日 14時～17時

場所： 学士会館分館 8号室

出席者

会長	副会長	理事													監事	幹事	支部長					事務局						
楠岡	安藤	福井	生田	石原	伊関	小笠原	佐藤	砂川	千田	田村	千原	橋爪	林	湊	南谷	山本	山口	山越	植野	松村	有澤	江刺	伊東	岩田	梶谷	廣川	村上	徳山
英雄	讓二	康裕	幸士	謙	洋	康夫	正明	賢二	彰一	俊世	國宏	誠	紘三郎	小太郎	晴之	克之	隆美	憲一	彰規	泰志	準二	正喜	一典	彰	文彦	俊二	聡	久美子
委							委								×	×	×		×		×	×	×	×				

配布資料

- 20-3-2 平成20年度第2回理事会議事録案
- 20-3-3 平成20年度第3回理事会入退会審査対象者
- 20-3-4 オンライン入会システム画面
- 20-3-5- 第30回第2種ME技術実力検定試験報告書
- 20-3-5- ME技術実力検定試験の合格者承認に関する申し合わせ
- 20-3-6 平成20年度各賞応募状況
- 20-3-7 平成20年度選挙管理委員並びに選挙実施スケジュール案
- 20-3-8 WC2009及びIFMBE総会の対応
- 20-3-9- 学術雑誌電子化関連事業の連携・協力についての合同説明会報告
- 20-3-9- 臨床研究に関する倫理指針の改正等について
- 20-3-10- 支部について
- 20-3-10- 生体医工学シンポジウム2008
- 20-3-11 生体医工学フォーラム2009
- 20-3-12 第2回日本医学会臨床部会会議
- 20-3-13 機関別認証評価委員会専門委員候補者の推薦について
- 20-3-14 第1回未来MEデザインコンテスト
- 20-3-15- 電子メールを利用した関連他学会開催案内等の協力に関する取扱基準案
- 20-3-17- 第47回生体医工学会大会報告
- 20-3-17- 第47回生体医工学会大会論文の検索システムについて
- 20-3-18 第48回生体医工学会大会の準備状況
- その他- 民による公益の増進を目指して
「第30回第2種ME技術実力検定試験筆記試験問題」

議事

1. 理事会成立の件（総務 湊）

定款に定める要件を満たしている（理事出席 13 名 委任状 2 通 計 15 名 / 17 名）
ことを確認して理事会成立を宣言した。

2. 前回議事録承認の件（審 総務 湊 資料 20-3-2）

前回議事録につき確認、原案どおり承認された。

3. 入退会（審 会員 回覧 資料 20-3-3）

入会：正会員 8 名 準会員 3 名

退会：正会員 29 名

逝去：正会員 4 名

全入退会、資格変更が承認された。

この結果、現況は正会員（国内）2342 名、正会員（海外）42 名、準会員（国内）386 名、準会員（海外）0 名、維持会員 19 社 29 口 顧問 3 名、名誉会員 56 名となる。

4. オンライン入会システムについて（審 会員 千田・佐藤 資料 20-3-4）

- オンライン入会システムについて運用方針が説明された。
 - ◇ 入会の際の推薦の扱いについて、推薦者を正会員から 1 名記載するか、推薦者がいない場合は、略歴書を事務局に送付することとする。
 - ◇ 推薦者の e-mail アドレスを念のために記載してもらう。
 - ◇ 現行の申し込み用紙の項目から DB で使用していない項目（最終学歴、現在の専門の詳細）を削除した。
 - ◇ 当面は、紙とシステムの並行運用をする。
- オンライン入会システムの運用について原案通りで承認された。
- 本システムは、本年 12 月半ばから運用を開始する。

5- . 第 30 回第 2 種 ME 技術実力検定試験実施結果の報告および合格者の認定

（報・審 ME 技術教育 石原 資料 20-3-5- ）

- 第 2 種 ME 技術実力検定試験を本年 9 月 7 日に 8 会場で実施した。
- 受験者数 4775 名、合格者 1398 名、合格率 29.3%であった。
- 合格者について、前回理事会での申しあわせどおり、本理事会で事後承認された。

5- . ME 技術実力検定試験の合格者承認に関する申し合わせ

（報・審 ME 技術教育 石原 資料 20-3-5- ）

- ME 技術実力検定試験の合格者承認に関し、以下の申し合わせについて一部修正がなされ、承認された。

- ◇ 合格者の認定は、理事会による承認とする。
- ◇ ただし、合否通知の発送時期と理事会の開催時期の関係で、理事会での事前承認が困難な場合には、基本資料を理事に回覧し、異議がなければ ME 技術教育委員会担当理事の下で合否を発表できるものとする。
- ◇ 合否の承認日は理事会承認の場合は理事会開催日とし、回覧の場合には検定試験実施の翌月末日とする。
- ◇ ME 技術教育委員会担当理事の下で合否発表を行った後に、理事会での事後承認を要するものとする。

6 . 平成 2 0 年度各賞応募状況 (報・審 選奨 橋爪 資料 20-3-6)

- 本年 11 月末日を締切として、学会誌およびホームページに応募を告知した。
- 役員・代議員、専門別研究会長、選定委員、編集委員 (論文賞) 維持会員 (新技術開発賞) には、別途、郵送、e-mail 等で推薦を依頼した。
- 現時点での応募は、論文賞 2 件、研究奨励賞 14 件あったが、新技術開発賞、荻野賞の推薦がない。
- 推薦は会員であれば良い。
- 荻野賞は応募、論文賞、研究奨励賞は推薦が必要であるが、自薦を禁止するものではない。
- 11 月末までの応募状況を見て、締め切りを延長するかは橋爪理事に判断を委ねることとする。
- 科学新聞賞・研究奨励賞・阪本研究刊行助成賞・阿部賞選定委員会の委員が提案どおり承認された。

7 . 理事・監事候補者推薦結果および今後の選挙日程の件

(報・審 選挙管理 小笠原 資料 20-3-7)

- 選挙実施スケジュール案が提示され、原案通り承認された。
- 平成 21・22 年度理事・監事の候補者について承認された。

8 . IUPESM Award of Merits 候補者等の推薦について(報・審 国際 福井 資料 20-3-8)

- IFMBE の理事として、当学会からは佐久間理事を推薦し手続きは完了した。
- IFMBE Awards について現時点で推薦していない
- IUPESM Awards of Merit について、梶谷先生が候補者に成り得る。
- 名誉会員、国際関係で活躍されたかたが推薦の対象、青柳先生 (日本光電) を推薦する案はどうか。
- 当学会からは梶谷先生、青柳先生ならびに名誉会員の先生の中から適する先生を推薦することとし、どの賞に推薦するべきかについては、菊地先生にご教示頂く

こととした。

- IAMBE Member は、会費を徴収されるので注意が必要

9- . 学術雑誌電子化関連事業の連携・協力についての合同説明会

(報 編集 田村 資料 20-3-9-)

- 科学技術振興機構 (JST) と国立情報学研究所 (NII) が、連携・協力し、今後、重複した電子化を行わず、利用者に利便性を損なわないよう、どちらも閲覧・検索できる体制が取られることが報告された。
- 生体医工学会は、NII との間で今後の進め方を協議し、必要な文書を取り交わす。
- 機関リポジトリを促進され、学協会著作権ポリシーデータベース“ SCPJ ”が作成・公開される動きがあることが報告された。
- 生体医工学会では、各大学の図書館のリポジトリを認め、学会で作成した PDF ファイルをデータベースに登録する方針とすることとなった。

9- . 編集委員会開催回数について (報 編集 田村)

- 年 2 回は、編集委員会を開催した方が良いとの意見がある。
- 1 回は大会中、もう一回を別に集まることとしたい。
- 交通費が必要となるので、来年度予算に 50 万円を計上する。

9- . 臨床研究に関する倫理指針 (報 編集 田村 資料 20-3-9-)

- 臨床研究に関する倫理指針の改正が、意見募集を経て平成 21 年 4 月 1 日から施行される。
- 生体医工学会の投稿規程では、倫理委員会を通すことが望ましいと記載されている。
- 工学系の単科大学では、大学内に倫理委員会がないことが多い。倫理指針の改正を受けて、どのように進めていくかが問題。
- 自施設以外に審査を依頼することができ、学会が倫理委員会を持つこともある。しかし、臨床研究のプロトコールの立て方から教える必要があるなど、大変な労力がかかる。
- 倫理委員会が施設にないために論文が出せないケースがどれくらいあるかを調査する必要がある。
- 本件について、アンケート調査を編集委員会で施行する。

10- . 関東支部設立の件 (審 支部 湊 資料 20-3-10-)

- 関東には支部がなかったが、公益法人化に際し、各会員に公平な機会が必要。
- 生体医工学シンポジウムの開催に際しても、関東支部があった方が良い。

- 会員数の半数（1217名）が関東支部となる。
- 支部費は、各支部会員数で按分するため、支部費の予算について見当する必要がある。
- 関東支部を2つに分ける場合、いずれの分け方でも問題がある。単一の関東支部を作る案が提案され、承認された。
- 支部設立に向けてのワーキンググループの設立を田村理事にお願いすることとなり、来年4月から活動することとした。

10- . 2008 生体医工学シンポジウム報告（報 支部 湊）

- 生体医工学シンポジウム 2008 は、本年 9 月 19 日、20 日に大阪大学基礎工学部棟で開催された。
- 181 件の演題の申し込みがあり、166 件の発表があった。
- 下記がベストリサーチアワードとして選出された。
 - 瀬尾欣也、稲垣正司、平林智子、日高一郎、杉町勝、杉浦清了、久田俊明
心臓の機械的伸展により誘発される不整脈の機序解明のための医工学的アプローチ
 - 清水秀年、宮村廣樹、松島秀、村上政隆、恵良聖一、内山良一、紀ノ定保臣
Equivalent Cross-Relaxation Rate Image を用いた唾液腺機能評価
 - 山芳寛、植野彰規
乳児の狭帯域心電図および呼吸性変動の肌着を介した計測
 - 福田浩士、小田垣雅人、樋脇治
両手指の連打タッピング運動における高密度脳電位計測
- 特集論文の採択率は、例年、通常誌と同程度。
- 現在は支部が主催で行っているが、拡大傾向にあり、位置づけをはっきりした方が良いとの意見があるが、必要がなくなった場合、引き受ける支部がなくなった場合に止める方針とするので、当面、支部主催の形態で行う。
- 運営が難しくなった場合に、運用形態を再考することとする。

11 . 生体医工学フォーラム 2009（報 医用研設立準備 安藤 資料 20-3-11）

- 生体医工学フォーラム 2009 を平成 21 年 3 月 11 日に東京大学本郷キャンパス山上会館で開催する。

12 . 第 2 回日本医学会臨床部会会議（報 医学会評議員 楠岡 資料 20-3-12）

- 日本医学会臨床部会が発足し、本年 10 月 8 日に第二回会議が開催された。
- 診療関連死に関する作業部会、専門医制に関する作業部会、公益法人に関する作業部会が組織され活動されているとの報告があった。

13. 機関別認証評価委員会専門委員の推薦について（報 楠岡 資料 20-3-11）
- 機関別認証評価委員会専門委員の推薦依頼が来ている。
 - 理事に推薦を依頼し、一件の推薦があったが、委員候補者は生体医工学会の活動歴のない人であったため、推薦は問題があるとし、推薦しない方針とした。
14. 第1回未来MEデザインコンテスト（審 生田 資料 20-3-14）
- 第1回未来MEデザインコンテストの原案が提示された。
 - 応募資格を学会員でない人や一般の人にも広げ、会員数の増に繋がることを期待する。
 - 第48回大会の中で開催し、学会からは表彰状を贈呈することとした。
15. 学会としての意見表明を行う場合の決定プロセスについて（報・審 楠岡）
- これまで学会としての意見表明を行う場合の、決定プロセスについての申し合わせがなかった。
 - 理事会で取りまとめすることを基本とする。
 - テーマによっては、会員にメールを使って意見募集をすることも考えられる。
 - 時間に余裕がない場合には、理事会、或いは執行部でまとめざるを得ないこともある。
15. 電子メールを利用した関連他学会開催案内等の協力に関する取扱基準（改定案）
（報・審 楠岡 資料 20-3-15- ）
- 電子メールを利用した関連他学会開催案内等の協力に関する取扱基準の改定案が提示された。
 - 本取扱基準の改定について了承された。
16. JACM 運営委員について（報 楠岡）
- JACM から運営委員を出して欲しいと依頼があった。
 - 6年前から山口先生が務めておられ、交代として阪本先生を委員として選出した。
 - このことについて、理事会で事後承認とする。
 - 今後、JACM の活動報告を依頼する。
17. 第47回大会の開催報告と決算報告（報 堀：代理松村 資料 20-3-17- ）
- 第47回大会は、本年5月8日～10日、神戸国際会議場にて開催された。
 - オーガナイズドセッション 28 セッション（内専門別研究会主催 21 セッション）
 - 企画演題 215 題、一般演題 495 題（口述発表 168 題、ポスター 327 題）、計 710

題の発表があった。

- 参加者は、会員 462 名、非会員 404 名、学生 371 名、計 1237 名であった。
- 懇親会は、花鳥園で開催され、294 名の参加があった。
- 本大会の収入は 40,411,520 円（参加費 11,786,000 円）、47,804 円が余剰金となったとの決算報告があった。

17- . 第 4 7 回日本生体医工学会大会論文の検索システムについて

(報 堀：代理松村 資料 20-3-17-)

- 第 47 回大会の論文集の論文をインターネットで公開できる準備が整った。
- 12 月より学会ホームページからアクセスできるように設定する。
- キーワード検索により、全文を閲覧・ダウンロードできる。
- 利用者の制限は設けていないが、誰が閲覧したかがわかるように、利用者登録を要する。

18 . 第 4 8 回大会の準備状況報告 (報 福井 資料 20-3-18)

- 第 48 回大会は、平成 21 年 4 月 23 日～25 日にタワーホール船堀で開催される。
- 2 日目 5 時から総会、6 時から懇親会の予定。
- 特別講演として、アメリカからミシガン大学の高山先生、イタリアから Smartex の Paradiso 先生、ドイツから RWTH Aachen 大学の Steinseifer 先生を予定。

19 . 第 5 0 回大会の大会長選任について (報・審 楠岡)

- 2011 年に開催される第 5 0 回記念大会の大会長に、東京大学の土肥先生が推薦され、承認された。

20- . 協賛等の状況

- 資料を回覧した

20- . 新公益法人制度について (報 福井 資料その他-)

- 今後 5 年の間に、公益社団法人、一般社団法人、任意団体になるのかの選択をしなければならない。
- 公益社団法人になると、寄付者が税制上の優遇があり、余剰金は見なし寄付金と見なされる。一方、事務コストがかかる。
- 公益社団法人を名乗れない場合は、一般社団法人となる。
- 一般社団法人、非営利型の場合、収益事業のみに課税される。ただし、検定試験は、収益事業と見なされる可能性が高い。
- 現状では、法制上、税務上、政府の方針が違っている部分があり注意を要する。

- 新制度下においては、理事会・評議員会では委任状による代理出席が認められないことになり、また、代議員選挙の方法も変わる。
- 会員を社員とした場合、定足数を満たさないと決議できない。
- 検討事項が多いため、来年の総会では、定款見直しは見送る。

20. その他

IEEE の EMBC 日本開催について（報 砂川）

- IEEE の EMBC が、今年のバンクーバで開催され、2013 年の開催地についてコンペがあり、日本が選出された。
- 11 月 1 日から 4 日の間、サイトスペクターの視察があり、国際会議場、ホテルを見て回った。
- 来年の春の報告で、良い報告がされると決定される。
- 第 5 2 回生体医工学会大会との同時開催とすると、メリットが大きいと思われる。第 5 2 回の大会長は、関西地区で選出したい。
- 本件は、重要議題なので、次回理事会の際に審議事項とする。